

題 言

北海道立衛生研究所報第12集は既刊の各集に比べて発表論文数及び内容において凌ぐものと感じられる。道の行政の方針が総合開発の促進及び直接道民生活の安定向上に寄与する科学研究及び調査の奨励に力が注がれていること、各保健所を含めて道衛生部の指導及び協力態勢が益々われわれの研究努力と歩調を合せて円滑に行われていることによるといつてよい。又われらはたえず北海道科学審議会、道立試験研究機関の援助と刺戟をうけている。

この第12号は最近における本所一年間の研究の結集であることは言うまでもないが、これを見て感ずることは本研究所の調査及び研究の対象が現在大いに広範囲に拡大されつつあることをよく反映している。創設当時を顧みるとき全く隔世の感がある。このことは昨年11月創立10周年の記念式を挙行したとき、式辞のうちに述べたことを想起するのである。その目立つ調査研究の課題を挙げれば、小児マヒウイルスを代表とする種々複雑なる腸管ウイルス群、インフルエンザウイルスと同じく呼吸道を侵す所謂呼吸器系ウイルス群の研究、工場砒山廃水による河川汚濁、大気汚染、尿尿処理、放射能による飲用水或は食品の汚染、種々なる新しい食中毒、例えば好塩菌、ウエルシ菌による中毒、鼠或は種々なる昆虫による疾病の媒介、益々多種多彩の様相を呈して作られる医薬品の精密検査、農業利用による被害、衛生的食生活に考慮を払い得ざる道民層に対する栄養の指導、特殊地域の疾病と栄養調査等々である。その他の研究課題も衛生部と協議の上、追加されることは必然である。

幸にも、われわれの努力と熱意は認められて、鉄筋新庁舎の新築が着手されんとしている。これは既に数年来狭隘且つ非能率を歎じていた一種の悲憤を癒やしてくれるほどの規模のものである。この新研究室における研究が、続刊されるわが研究所報を飾るであろうことを期待するものである。

昭和 36 年 5 月

北海道立衛生研究所

所 長 中 村 豊